

コラージュを用いたキャリア教育プログラムに関する研究

伊藤 嘉奈子（子ども心理学科・准教授）・工藤 吉猛（鎌倉女子大学中高等部・教諭）

1. 研究の目的

文部科学省（2009）によれば、平成21年3月に中学校を卒業した生徒のうち、97.9%にあたる約116万3千人が高等学校に進学している。このような状況において、高等学校への進学理由として「家族がすすめたから」が30.4%、「みんなが行くから」が27.4%であり（内閣府政策統括，2009）、主体的に進路決定できていない生徒が6割近くいるということが分かる。

また、近年、児童生徒の就労観や職業観の希薄化、フリーターやニートといった若者の問題が社会問題として挙げられている。このような中、児童生徒が「生きる力」を身につけ、様々な課題に柔軟に対処し、社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育の重要性が指摘されるようになった（中央教育審議会答申，1999）。

そこで、本研究では、キャリア教育の中核をなすと位置づけられる中学校段階でのキャリア教育の実践研究を行う。対象は、本学中等部1年～3年の生徒とし、系統的なキャリア教育が実施できるよう学習内容を検討し、より効果的なキャリア教育プログラムを開発したいと考える。具体的には、前述の教育目標、及び、キャリア教育の中で重視される能力・態度を育成するために、「職業調べ」などのキャリア教育の授業の中にコラージュを導入する。そして、そのコラージュ作品をもとにしてグループ内で発表し合うというようなグループ体験を通して職業に対する意識の向上を目指すような内容を実践し、教育効果を検討することを目的とする。

2. 研究計画

平成21年度 ①先行研究の検討（文献、資料等）

②国内の中学校におけるキャリア教育実践の実態調査（現地取材）

③キャリア教育の実践授業の検討及び計画

④予備調査の実施（授業実践、質問紙調査、面接調査）

平成22年度 ①国内の中学校・高等学校におけるキャリア教育実践の実態調査

（現地取材）

②本調査の実施（各学年における授業実践、質問紙調査、面接調査）

③中学校におけるキャリア教育プログラムの検討

平成23年度 ①国内外の中学校・高等学校におけるキャリア教育実践の実態調査

（現地取材・現地視察）

②本調査の実施（各学年における授業実践、質問紙調査）と結果の分析

③中学校におけるキャリア教育プログラムの考察

④研究報告書の作成

3. 研究経過と今後の方針

(1) 平成22年度の研究経過

平成21年度の調査と同一の調査対象者に対し、縦断的研究を実施し、その結果を本大学紀要に掲載予定である。

具体的な調査内容は、中学3年生を対象とした、単元「将来設計能力・人間関係形成能力・情報活用能力の3能力の向上」を扱うキャリア教育の授業において、教育現場で美術の技法として親しまれているコラージュをグループワークとして導入し、本授業の単元目標である「職業知識の向上と職業に対する意識の向上と、現在の学びや進路（文理）選択と将来の職業の関連付け」ができるようにキャリアガイダンスを行った。そして、その教育的効果を①坂柳・竹内（1986）の進路成熟態度尺度と、②独自に作成した質問紙を用いて検討することを目的とした。

授業では、事前に準備した写真や絵の切抜きを自由に画用紙に貼るというコラージュを導入した。さらに、構成的グループエンカウターの手法を用いて、各自に自分の進路選択や将来の職業について発表し、シェアリングを行った。

その結果、職業に対する意識の向上や、進路選択に関する理解の深まりなどの教育的効果が見受けられた。さらに、グループワークの効果も見受けられた。

(2) 平成23年度の方針

論文だけではわからない具体的な実践方法や実践上の工夫、授業を受けている生徒の様子（課題に取り組む姿勢や、教師との双方向授業のやりとりの様子など）について、国内外のキャリア教育実践の実態調査（現地取材・現地視察）を行いたいと考えている。そして、その取材や視察から得た新たな知見を交えながら、さらに調査を実施していきたいと考えている。

具体的には、①各学年における教育課程を念頭に置いたキャリア教育の授業実践の実施と分析・考察、②中学3年間のキャリア教育プログラムの検討・考察、を予定している。

引用文献

- 石嶋宏規・橘川真彦 2003 中学生の高校進学動機が教育的進路成熟に及ぼす影響 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, 26, 229-240.
- 伊藤嘉奈子・工藤吉猛 2010 コラージュを用いたキャリア教育に関する一考察 鎌倉女子大学紀要, 17, 19-30.
- 國分康孝・國分久子 総編集 2004 構成的グループエンカウター事典 図書文化
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2003 児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2009 平成20年度 職場体験・インターンシップ実施状況等調査の結果について
- 文部科学省 2004 キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～
- 文部科学省 2005 中学校職場体験ガイド
- 文部科学省 2006 小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引——児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために——

文部科学省 2009 学校基本調査結果概要.

内閣府政策統括官 2009 高校生活及び中学校生活に関するアンケート調査－高等学校中途退学者及び中学校不登校生徒の緊急調査.

中井久夫・森谷寛之 他 1993 コラージュ療法入門 創元社

坂柳恒夫・竹内登規夫 1986 進路成熟態度尺度（C M A S－4）の信頼性および妥当性の検討 愛知教育大学研究報告, 35, 169－182.

戸塚唯氏・深田博己・児玉真樹子 2003 中学校における進路指導の実践——平成15年度進路指導講座資料の分析——広島大学心理学研究, 3, 177－201.

鳥丸佐知子 2007 コミュニケーションワーク活性剤としてのコラージュの有効性について 京都文教短期大学, 46, 109－119.

中央教育審議会答申 1999 初等中等教育と高等教育との連携の改善について

吉田辰雄 2006 最新 生徒指導・進路指導論——ガイダンスとキャリア教育の理論と実践——図書文化